

「戦後60周年」はどのように報道されたか

－東アジア主要新聞の量的比較分析－

上智大学「戦後60周年報道」研究会¹

小寺敦之・金山勉・姜恩貞

竹村朋子・白承嫻・朱沿華・陳紀姣

はじめに

メディアによるニュース報道は、世の中の出来事をゲートキーパーとして拾い上げ、加工・編集して人々に伝達していくというジャーナリズム行為であると考えられる。その結果として、ニュース報道は世の中の出来事に対する人々の意見形成に作用したり、社会環境の中で個人が意思表示をする際の判断材料となったりする可能性がある。本論文は、「戦後60周年」という特定の議題に関して、国際的な視点から関連ニュース報道の比較・検討を行うものである。

尹榮喆と李光鎬（2000）は、政治的な利害関係や歴史・文化的認識の違いが存在する状況だけでなく、国家間の利害関係が鋭く対立する葛藤状況ではメディアは単なる傍観者ではなく積極的な参加者として国民意識に大きく関与すると指摘している。本論文では、日本、中国、韓国、台湾の新聞が、国際的な問題とも関連する「戦後60周年」という節目に、これをどのように取り上げ、どのように報道したかを実証的に分析していく。これにより、「戦争」や「戦後」に対する多様な捉え方を検証する。

調査目的

2005年夏は、日本を含むアジア諸国にとって「戦後60周年」という節目であっただけでなく、小泉純一郎首相（当時）の外交姿勢が国内外のメディア

¹ 本論文は、上智大学大学院文学研究科新聞学専攻・金山勉ゼミ（2005年度～2006年度）に所属する大学院生によって構成された「戦後60周年報道」研究会の研究成果である。研究会メンバー（座長＝小寺）は2005年夏以降、定期的に研究会を開催して調査を進めてきた。

で頻繁に取り上げられ、歴史認識の相違や国民感情の対立がメディア報道の中でも顕在化した時期でもあった。韓国や中国のメディアが議題として設定した領有権紛争、歴史教科書問題、首相の靖国神社参拝などは国民的な関心事との位置付けでセンセーショナルに報道された。日本では、小泉首相が主導した「郵政選挙」によって議題の転換が図られ、報道バランスとしては郵政選挙へ力点が置かれたように思われるが、60年前の戦争に端を発する議論が現在に至っても依然として継続していることは事実である。過去の戦争は、日本と東アジア諸国にとって、それぞれの立場から克服されるべき課題を提示し続けていると言えるだろう。

日本を含めたアジアの報道機関が「戦後60周年」の節目をどのように報じたのかを具体的に把握することは、それぞれが有する視点を明確にするだけでなく、将来的に良好な相互関係をつくり上げていくための検討資料を提示することにもなる。本論文は、政治的メッセージを発信することを目的とするものではないが、各ジャーナリズム機関の報道にみられる共通点や相違点を見ていくことで、それぞれの関心や立場を社会科学的な観点から明らかにすることができると思う。

「戦後60周年」に関する報道は、日本と東アジアの現状をめぐる広範な枠組みをベースにしていた。本論文では、各新聞が、その枠組みのもとでどのような議題を設定したかという基礎的な問題意識に沿って分析をする。したがって、具体的な報道言説分析をするのではなく、どのようなテーマが設定され、どのような報道アプローチが採用されたかについての客観的指標によって数量化されたデータを比較することによって、全体的な傾向を捉えることを目指したい。

ところで、同一のニュースについて複数国の報道内容を一斉に分析する際に問題として生じるのは、データアクセスに対する現実的問題（データは必ずしも日本国内で入手できるとは限らない）だけでなく、言語能力の問題（分析者は分析対象となる国の言語に精通している必要がある）があり、研究プロジェクトを履行するためには多言語を扱うことが必要になってくる。

例えば、日本と東アジア諸国との新聞報道を比較した実証的研究としては、①A国のB国に関する報道内容を分析した事例と、②同じテーマについてのA国・B国双方の報道内容を分析した事例がある。①に関しては、日本の三

「戦後60周年」はどのように報道されたか

大新聞（『読売新聞』『朝日新聞』『毎日新聞』）の韓国に対する報道を分析した洪崙杓（1990）や李相湖（1992）など多くの研究があるが、②に関しては、『人民日報』と『朝日新聞』が天安門事件をどのように伝えたかを分析した今田（1991a, 1991b, 1992）の研究、日本の新聞（『読売新聞』『朝日新聞』『毎日新聞』『産経新聞』）と韓国の新聞（『朝鮮日報』『東亜日報』『ソウル新聞』『ハンギョレ新聞』）が韓日領有権紛争をどのように報道したかを比較分析した尹榮喆と李光鎬（2000）の研究など数えるほどしか見られない。さらに三ヶ国以上を比較した研究となると皆無と言ってよい状況である²。

本研究は新聞学専攻で研究を続ける日本、韓国、中国、台湾の大学院生による共同プロジェクトであり、単一テーマについて多国間の新聞報道を比較する初めての試みとしての意義をも併せ持っている。

調査方法

「戦後60周年」についての記事が掲載された期間は新聞によって異なるが、全ての新聞を同条件にして分析するため、2005年7月7日～9月9日を分析期間とした。これは、「盧溝橋事件」が発生してから「解放記念日」を迎えるまでの中国の期間を基準としている。しかし、日本や韓国での大きな出来

² 一方、テレビ報道に関しては、NHK放送文化研究所放送研究部（1996）が世界の「戦後50周年」報道について行った調査がある。この調査では、式典関係が中心となった5月と原爆関係が中心となった8月の世界各国のニュース番組を抽出して、それぞれの多様な伝え方を明らかにしている。

³ ここで取り上げた各新聞は、日本、韓国、中国、台湾を代表する全国紙である。ここでは日本の三紙以外について概要を記しておきたい。

韓国の『中央日報』『東亜日報』は、韓国の中央総合日刊紙（全国紙）の中でも発行部数、購読率、売り上げ等で大きな割合を占める三大新聞のふたつである。三大新聞には、最も保守色が強いとされる『朝鮮日報』も含まれるが、本調査では資料収集の限界という理由で分析対象から除外した。また、進歩的で改革的性格の強い『ハンギョレ新聞』は、その性格の違いから『朝鮮日報』との比較対象になることが多い。

中国の『人民日報』は、中国共産党の機関紙であり、制度的・思想的に日本や韓国の新聞とは正確を異にする。『人民日報』は「マルクス・レーニン主義、毛沢東思想及び中国共産党の路線、方針と政策の宣伝」「全国各族人民による社会主義革命と社会主義建設活動の報道」などを目的としており、中国で最も権威性の高い総合代表紙とされる。

台湾では、1998年の新聞解禁以来、新聞の自由化、多元化が促された。現在は、国営、党営紙の発行部数が段々減少し、複数の新聞社グループが市場を握る状況を迎えている。中でも、財団形式で経営される『中国時報』『聯合報』は「昔二大報」と呼ばれ、100万部の発行量を持つ。この二紙と、台湾本土志向の『自由時報』、香港資本で娯楽志向が強い『蘋果日報』が台湾で最も読まれる四大新聞となっている。本調査では、資料収集が容易な『聯合報』のみを分析対象としている。

小寺敦之

事はこの期間に含まれることから、日本を基準とするよりは公正であると判断した。

対象とする新聞は、購読者の多い全国紙を選んだ。日本は『読売新聞』『朝日新聞』『毎日新聞』の三紙、韓国は『中央日報』『東亜日報』の二紙、中国は『人民日報』、台湾は『連合報』である。また、対象新聞は全て朝夕刊発行ではないため、朝刊のみを扱うこととした³。

具体的な分析手続きは次の通りである。

- (1) 対象新聞／対象期間における「戦後」「戦争」に関する記事を、縮刷版などを利用して全て抽出した。本研究の関心は各新聞の「戦後60周年」の扱いにあるため、分析対象とする記事にはストレートニュース（前日の出来事）や読者投稿などは含まず、社説、検証記事、ルポルタージュ、インタビューといった企画記事に限定した。ストレートニュースを除外したのは、政治家の動向や戦争関連式典によってデータに差が生じるのを防ぐためであり、企画記事の中にこそ各紙の立場や時代背景が反映されると考えたからである。
- (2) 抽出した記事には、見出しを単位とした通し番号が振られ、それぞれの記事の要約を付した。韓国、中国、台湾の新聞の要約は日本語で行われた。日本語訳を付す作業は、基準とした日本との統一性を確認することと同時に、コーディング一致度を計測する際に必要であった。
- (3) 各新聞が取り上げるテーマの割合に主眼を置くという観点から、調査における分析単位は件数ではなく面積比とした。つまり、「戦後60周年」に関する記事の内訳によって、各新聞がどのような項目を重点的に報道したのかを検証するというわけである。この観点から、それぞれの記事に割かれる面積を記録した⁴。
- (4) それぞれの記事に対して、予備調査をもとに作成したコードを施した。

⁴ 調査データは縮刷版などから抽出したものであり、実際の紙面面積とは一致していない。したがって、本論文中の図表で示される面積は参考値であり、あくまでも比率による比較が目的であることを留意されたい。

「戦後60周年」はどのように報道されたか

コードは、扱われる議題に関する「記事のテーマ」と、取材アプローチに関する「記事の種類」について記録された。コード表は以下の通りである。なお、同一記事の中に複数の「記事のテーマ」「記事の種類」が存在する場合は、最も中心的であると思われるもののコードを付すこととした。

【記事のテーマ】

「A」＝戦争（政治的・軍事的抗争）に直接関係する記事で、完結した出来事を中心に扱ったもの。政治的・軍事的視点から戦争を振り返った記事全般。戦争の歴史的経緯の検証や評価、戦争責任に関する言及などを含む。

「B」＝戦争中の市民生活に関する記事。戦争中の市民活動、市民の様子などを描いたルポルタージュやインタビューなど。市民の視点で戦争を振り返った記事全般。

「C」＝戦後の社会に関する記事。戦後の政治・国際情勢、市民生活の展開に関するもの。経済・科学文化の発展などの戦後史関連記事を含む。

「D」＝戦争に端を発し、現在に至っても議論がある限定的・具体的な問題に関する記事。この項目は、分析段階では、「原爆・原爆被爆者」「沖縄返還・米軍基地」「強制連行・従軍慰安婦」「中国残留孤児」「平和教育」など15項目程度に細分化された。

【記事の種類】

「1」＝検証（事実検証・評価）

「2」＝ルポルタージュ

「3」＝インタビュー

「4」＝資料（写真記事含む）

「5」＝意見・主張・コラム

「6」＝イベント（展示会のような行事や書籍・番組の紹介）

「7」＝伝記

(5) コーディングは各新聞に対して必ず複数名が関与する形で行い、さらにコーディングの信頼性（reliability）を計測するために、各新聞の任意の40件に対してコーディングを行って一致度を算出した。この作業は、日

小寺敦之

本人担当者が行った。コーディングの一致度が低い場合は分析担当者とコーディングを再検討する作業を行った。最終的なコーディングの一致度は総じて高く、コーディングの信頼性は確保されたと思われる⁵。

調査結果

以上の手続きを経て、日本、韓国、中国、台湾の主要新聞七紙が「戦後60周年」をどのように報道したかについての数量的データを得た（【図表1】～【図表7】）。

以下では、各新聞の傾向について、該当データの要因となった記事を中心に議論する。また、日本、韓国、中国、台湾の全体的な特徴を整理することで、日本との相違点についても検討してみたい。

（日本／『読売新聞』『朝日新聞』『毎日新聞』）

日本の三大新聞には、「記事のテーマ」「記事の種類」ともに、全体的に似た傾向が見出された。

「記事のテーマ」は、「政治・軍事的戦争」「戦後の社会・生活」といった戦争・戦後を振り返るタイプのものが多くを占める。

「政治・軍事的戦争」に分類された記事としては、『読売』（52.5%）が展開した東京裁判の検証（7月15日）、「戦後60周年インタビュー」「戦場の手記」という政治面・社会面の連載が挙げられる。また、『朝日』（20.3%）も長崎の8月9日を再現する企画（8月9日）や、現在も残る戦争の跡地を訪ねるルポルタージュ「戦跡は語る」を連載している。1945年8月15日の新聞紙面を掲載して検証するなどのユニークな試みを行った『毎日』（32.7%）は、「広島、長崎－1945年」と題する連載を連日展開しており、原爆投下計画から終戦に至るプロセスを、ちょうど60年前の同日という切り口で伝えている。

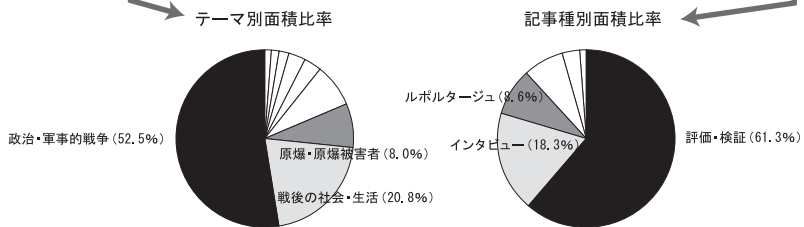
「戦後の社会・生活」についても、各紙で異なった企画が見られた。このカテゴリーの割合が最も高かった『朝日』（36.3%）は、「消費者の伝言」「ド

⁵ コーディングの一致度は、『読売新聞』[90.0%（テーマ）／92.5%（種類）]、『朝日新聞』[92.5%（テーマ）／90.0%（種類）]、『毎日新聞』[95.0%（テーマ）／95.0%（種類）]、『中央日報』[92.5%（テーマ）／92.5%（種類）]、『東亜日報』[92.5%（テーマ）／90.0%（種類）]、『人民日報』[92.5%（テーマ）／97.5%（種類）]、『聯合報』[87.5%（テーマ）／92.5%（種類）]であった。

「戦後60周年」はどのように報道されたか

	1. 検証	2. ルポ	3. インタビ	4. 資料	5. 主張	6. イベント	7. 伝記	
【A】 政治・軍事的 戦争	38.8% 4070cm ² (18件)	3.0% 315cm ² (2件)	6.4% 674cm ² (9件)	0.5% 56cm ² (1件)	3.7% 386cm ² (5件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	52.5% 5501cm ² (35件)
【C】 戦後の 社会・生活	11.0% 1157cm ² (11件)	3.6% 373cm ² (2件)	2.9% 301cm ² (2件)	0.7% 70cm ² (1件)	1.9% 196cm ² (6件)	0.8% 86cm ² (1件)	0% 0cm ² (0件)	20.8% 2183cm ² (23件)
【D】 原爆 原爆被害者	5.0% 522cm ² (4件)	0% 0cm ² (0件)	0.6% 64cm ² (1件)	0% 0cm ² (0件)	0.5% 54cm ² (1件)	1.9% 201cm ² (2件)	0% 0cm ² (0件)	8.0% 841cm ² (8件)
【D】 平和教育	3.1% 329cm ² (4件)	2.0% 213cm ² (2件)	1.5% 154cm ² (2件)	0% 0cm ² (0件)	0.8% 85cm ² (1件)	0.5% 51cm ² (1件)	0% 0cm ² (0件)	7.9% 832cm ² (10件)
【D】 靖国問題	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	2.7% 288cm ² (5件)	0% 0cm ² (0件)	0.5% 51cm ² (1件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	3.2% 339cm ² (6件)
【B】 戦争中の 市民生活	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	3.1% 324cm ² (4件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	3.1% 324cm ² (4件)
【D】 領土問題 (北方領土)	0.7% 70cm ² (1件)	0% 0cm ² (0件)	1.1% 117cm ² (1件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	1.8% 187cm ² (2件)
【D】 沖縄返還 米軍基地	1.4% 142cm ² (1件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	1.4% 142cm ² (1件)
その他	1.2% 130cm ² (1件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	1.2% 130cm ² (1件)
	61.3% 6420cm ² (40件)	8.6% 901cm ² (6件)	18.3% 1922cm ² (24件)	1.2% 126cm ² (2件)	7.4% 772cm ² (14件)	3.2% 338cm ² (4件)	0% 0cm ² (0件)	100% 10479cm ² (90件)

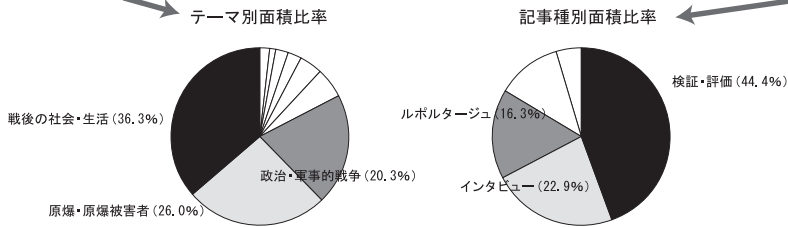
※比率(%)は、それぞれのカテゴリーにおける面積に対するもの/件数と面積は参考値



【図表1】 記事テーマ×記事種別 面積比率一覧表 『読売新聞』（日本）

	1. 検証	2. ルポ	3. インタビ	4. 資料	5. 主張	6. イベント	7. 伝記	
【C】 戦後の 社会・生活	18.8% 3802cm ² (18件)	6.9% 1392cm ² (8件)	5.5% 1110cm ² (5件)	0% 0cm ² (0件)	2.4% 494cm ² (8件)	2.8% 558cm ² (2件)	0% 0cm ² (0件)	36.3% 7356cm ² (41件)
【D】 原爆 原爆被害者	12.3% 2495cm ² (7件)	2.3% 460cm ² (4件)	8.5% 1726cm ² (12件)	0% 0cm ² (0件)	2.3% 468cm ² (3件)	0.6% 127cm ² (2件)	0% 0cm ² (0件)	26.0% 5276cm ² (31件)
【A】 政治・軍事的 戦争	10.4% 2107cm ² (11件)	6.9% 1407cm ² (17件)	2.4% 496cm ² (2件)	0% 0cm ² (0件)	0.5% 96cm ² (1件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	20.3% 4106cm ² (31件)
【D】 靖国問題	0.7% 135cm ² (1件)	0% 0cm ² (0件)	2.9% 579cm ² (3件)	0% 0cm ² (0件)	1.9% 392cm ² (2件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	5.5% 1106cm ² (6件)
【D】 平和教育	0.4% 78cm ² (1件)	0% 0cm ² (0件)	2.2% 436cm ² (2件)	0% 0cm ² (0件)	0.5% 98cm ² (2件)	1.2% 248cm ² (3件)	0% 0cm ² (0件)	4.2% 860cm ² (8件)
【B】 戦争中の 市民生活	0.5% 92cm ² (1件)	0.2% 40cm ² (1件)	0.8% 165cm ² (3件)	0% 0cm ² (0件)	1.0% 202cm ² (3件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	2.5% 499cm ² (8件)
【D】 沖縄返還 米軍基地	0.3% 63cm ² (1件)	0% 0cm ² (0件)	0.3% 54cm ² (1件)	0% 0cm ² (0件)	1.7% 348cm ² (2件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	2.3% 465cm ² (4件)
【D】 強制連行 従軍慰安婦	1.1% 231cm ² (3件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	1.1% 231cm ² (3件)
その他	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	0.4% 75cm ² (1件)	0% 0cm ² (0件)	1.4% 290cm ² (5件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	1.8% 365cm ² (6件)
	44.4% 9003cm ² (43件)	16.3% 3299cm ² (30件)	22.9% 4641cm ² (29件)	0% 0cm ² (0件)	11.8% 2388cm ² (26件)	4.6% 933cm ² (7件)	0% 0cm ² (0件)	100% 20264cm ² (135件)

※比率(%)は、それぞれのカテゴリにおける面積に対するもの/件数と面積は参考値

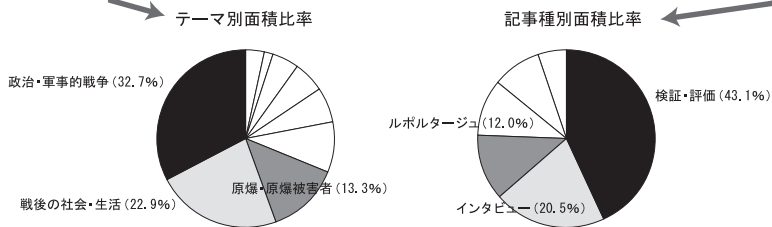


【図表2】 記事テーマ×記事種別 面積比率一覧表 『朝日新聞』（日本）

「戦後60周年」はどのように報道されたか

	1. 検証	2. ルポ	3. インタビ	4. 資料	5. 主張	6. イベント	7. 伝記	
【A】 政治・軍事的 戦争	24.1% (4935cm 51件)	2.5% (522cm 4件)	5.1% (1036cm 7件)	0.5% (102cm 1件)	0.2% (50cm 1件)	0.3% (53cm 1件)	0% (0cm 0件)	32.7% (6698cm 65件)
【C】 戦後の 社会・生活	5.2% (1071cm 9件)	2.5% (510cm 5件)	2.4% (493cm 7件)	8.9% (1816cm 6件)	0.8% (156cm 5件)	3.1% (638cm 5件)	0% (0cm 0件)	22.9% (4684cm 37件)
【D】 原爆 原爆被害者	4.2% (866cm 6件)	0.8% (160cm 2件)	3.9% (801cm 3件)	0% (0cm 0件)	3.4% (689cm 9件)	1.0% (204cm 2件)	0% (0cm 0件)	13.3% (2720cm 27件)
【D】 沖縄返還 米軍基地	1.8% (359cm 4件)	3.8% (777cm 9件)	2.1% (425cm 5件)	0.6% (113cm 2件)	1.0% (211cm 4件)	0% (0cm 0件)	0% (0cm 0件)	9.2% (1885cm 24件)
【D】 靖国問題	4.6% (948cm 11件)	0% (0cm 0件)	0.3% (70cm 1件)	0% (0cm 0件)	1.4% (288cm 4件)	0% (0cm 0件)	0% (0cm 0件)	6.4% (1306cm 16件)
【D】 平和教育	0.4% (77cm 1件)	0.9% (176cm 1件)	2.2% (442cm 3件)	0% (0cm 0件)	1.7% (358cm 9件)	0.6% (117cm 1件)	0% (0cm 0件)	5.7% (1170cm 17件)
【B】 戦争中の 市民生活	0.9% (184cm 3件)	0% (0cm 0件)	3.1% (645cm 12件)	0.4% (78cm 1件)	0.2% (32cm 1件)	0.3% (56cm 1件)	0% (0cm 0件)	4.9% (995cm 18件)
【D】 領土問題 (竹島/尖閣/北方)	1.3% (273cm 4件)	0% (0cm 0件)	0.3% (65cm 1件)	0% (0cm 0件)	0% (0cm 0件)	0% (0cm 0件)	0% (0cm 0件)	1.6% (338cm 5件)
その他	0.6% (122cm 2件)	1.6% (320cm 3件)	1.1% (224cm 2件)	0% (0cm 0件)	0.2% (33cm 1件)	0% (0cm 0件)	0% (0cm 0件)	3.4% (699cm 8件)
	43.1% (8835cm 91件)	12.0% (2465cm 24件)	20.5% (4201cm 46件)	10.3% (2109cm 10件)	8.9% (1817cm 34件)	5.2% (1068cm 12件)	0% (0cm 0件)	100% (20495cm 217件)

※比率(%)は、それぞれのカテゴリーにおける面積に対するもの/件数と面積は参考値



【図表3】 記事テーマ×記事種別 面積比率一覧表 『毎日新聞』（日本）

小寺敦之

ラマに映るわが家」など60周年を機に戦後の日本社会を整理・評価する企画を立てており、『読売』（20.8%）は、「生活の残照」という連載企画で戦後社会の変化を考察している。『毎日』（22.9%）は、日本の戦後史を写真で振り返る企画を8月15日に展開して、ほぼ全頁の片端に様々な戦後史の写真を掲載するユニークな試みを見せた。

また、「原爆・原爆被害者」が多く取り上げられている点も三紙に共通している。特に、『朝日』（26.0%）は「核を追う」「原爆をたどる旅」など多くの検証記事やインタビューを連載しており、量的に最も力を入れていることが見出せる。また、被爆者援護法の検証（『読売』／8月4日）などの試みもあり、各紙は積極的にこの問題を扱っていることが分かる。

さらに、「沖縄返還・米軍基地」の記事が多いのは日本的な特徴であると言える。特に『毎日』（9.2%）は、沖縄で生まれた子どもが米軍兵士だった父親を探す物語を連載（7月21日～）し、また、砂川闘争を描いた「平和の源流」と題する連載（8月10日～）では憲法や米軍基地問題に迫っている。

「靖国問題」も各紙で取り上げられている。『読売』（2.7%）が現役政治家へのインタビューを多く連載する一方で、『朝日』（5.5%）は後藤田正晴氏ら首相の靖国参拝に批判的な論者の意見を中心に掲載している。「平和教育」に関しても、全国の平和教育活動の紹介（『読売』）、対談やインタビュー（『朝日』）、意見・主張（『毎日』）とアプローチは異なるものの、各紙が積極的に取材・掲載を行っていることが見出された。

分類されたカテゴリーとその記事内容を詳しく見ていくと、いくつかの差異が存在することも指摘できる。例えば、『朝日』（20.3%）や『毎日』（32.7%）と比べて、『読売』（52.5%）は「政治・軍事的戦争」の扱いが大きい。「戦後60周年」という節目に、戦争・戦後を振り返るというアプローチを採る『朝日』や『毎日』に対して、『読売』は先の戦争を再検証するという試みを行ったと見ることができる。典型的な例としては、先述した東京裁判の検証（7月15日）や、特集「検証・戦争責任」（8月13日）が挙げられる。『朝日』『毎日』には、戦争責任の検証が全面的に打ち出されたものは見られない。『朝日』は、戦跡ルポや戦後社会の総括、『毎日』は原爆投下計画から終戦に至るプロセスのドキュメントが軸となっており、これらが三紙の「戦後60周年」報道を特徴付ける違いであると言える。

「記事の種類」は、三紙ともに「検証・評価」「インタビュー」「ルポルター

「戦後60周年」はどのように報道されたか

ジュ」が大半を占めており、それぞれの「テーマ」で違いはあるものの、全体として大きな比率の違いは見られない。『読売』の「検証・評価」の割合が大きいのは、先述した戦争責任に関する検証記事が多くを占めていることによる。

（韓国／『中央日報』『東亜日報』）

1910年の日韓併合から1945年までの35年間、植民地として日本の統治下に置かれていた韓国では「戦後60周年」を「光復60周年（解放60周年）」と記すことが多い。つまり、韓国にとって60年前の戦争とは、日本の一部として強制的に動員された戦争であり、日本の統治からの光復運動（独立運動）を意味するのである。

『中央日報』と『東亜日報』における「記事のテーマ」は、「政治・軍事的戦争」「戦後の社会・生活」に関する記事が多くを占めており、この点は日本と同様である。ただし、当然のことながら、韓国における「政治・軍事的戦争」は、日本との関係性の中で戦争を捉えた記事であることが多い。また、『中央』の「過去事清算」（9月2日）のように、戦時中に侵略国に協力した人々に対する評価をどうすべきかについて欧州の例を取り上げて検証するなど、被害国としての立場からのアプローチが多く見られる。

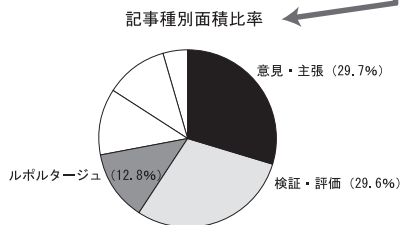
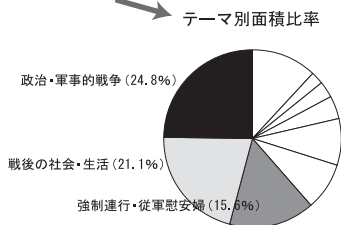
「戦後の社会・生活」では、『中央』（21.1%）が8月16日に東アジアのソフトパワーに関する記事を、翌17日には「先進国の行く道」と題する記事を大きく掲載しており、また『東亜』（32.9%）も8月16日に日本からの独立後の韓国を検証した「成就と挑戦」を企画するなど、主旨を異にするアプローチが採用されている。

「原爆・原爆被害者」についての記事も少なくなかった。例えば、『中央』（4.2%）の「広島原爆投下60周年」（8月3日）では、原爆被害・戦争責任を訴えつつも第二次大戦の反省を回避する日本の姿勢を検証したり、広島のリポータージュや「韓国の広島」とされるハプチョンの問題を扱ったりするなどの企画が見られる。

また、対米的な関心の高い日本とのギャップが生じている可能性も見出せた。例えば、韓国の二紙には「強制連行・従軍慰安婦」を扱った記事が多く、『中央』（15.6%）の連載「海外の韓民族を探して」（8月17日～）や、『東亜』（4.6%）が行った徴用韓国人の遺骨調査の検証（8月10日）、従軍慰安婦不法

	1. 検証	2. ルポ	3. インタビ	4. 資料	5. 主張	6. イベント	7. 伝記	
【A】	10.8%	0%	5.3%	0%	4.7%	3.9%	0%	24.8%
政治・軍事的戦争	3577cm ² (11件)	0cm ² (0件)	1761cm ² (4件)	0cm ² (0件)	1557cm ² (6件)	1303cm ² (2件)	0cm ² (0件)	8198cm ² (23件)
【C】	2.4%	0%	0%	3.7%	9.9%	5.1%	0%	21.1%
戦後の社会・生活	802cm ² (5件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	1228cm ² (3件)	3283cm ² (10件)	1672cm ² (5件)	0cm ² (0件)	6985cm ² (23件)
【D】	5.9%	6.8%	0.7%	0%	1.3%	0.9%	0%	15.6%
強制連行 従軍慰安婦	1966cm ² (4件)	2237cm ² (3件)	246cm ² (2件)	0cm ² (0件)	415cm ² (1件)	300cm ² (1件)	0cm ² (0件)	5164cm ² (11件)
【D】	1.5%	0%	0%	0%	7.1%	0%	0%	8.7%
日本の 憲法9条	511cm ² (1件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	2366cm ² (6件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	2877cm ² (7件)
【D】	6.3%	1.2%	0%	0%	0%	1.0%	0%	8.5%
南北朝鮮 分断と統一	2085cm ² (4件)	395cm ² (1件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	342cm ² (1件)	0cm ² (0件)	2822cm ² (6件)
【D】	0.5%	2.9%	0%	0.8%	0%	0%	0%	4.2%
原爆 原爆被害者	173cm ² (1件)	948cm ² (2件)	0cm ² (0件)	267cm ² (1件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	1388cm ² (4件)
【D】	1.1%	0.7%	0%	0.0%	1.1%	0%	0%	3.0%
靖国問題	377cm ² (1件)	222cm ² (1件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	378cm ² (0件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	977cm ² (3件)
【D】	0.0%	1.3%	0.4%	0%	0%	0.6%	0%	2.3%
在日 韓国・朝鮮人	0cm ² (0件)	431cm ² (1件)	131cm ² (1件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	185cm ² (1件)	0cm ² (0件)	747cm ² (3件)
その他	0.9%	0%	4.9%	0%	5.5%	0.6%	0%	11.9%
	308cm ² (1件)	0cm ² (0件)	1619cm ² (5件)	0cm ² (0件)	1823cm ² (6件)	186cm ² (1件)	0cm ² (0件)	3936cm ² (13件)
	29.6%	12.8%	11.4%	4.5%	29.7%	12.1%	0%	100%
	9799cm ² (28件)	4233cm ² (8件)	3757cm ² (12件)	1495cm ² (4件)	9822cm ² (30件)	3988cm ² (11件)	0cm ² (0件)	33094cm ² (93件)

※比率(%)は、それぞれのカテゴリーにおける面積に対するもの/件数と面積は参考値

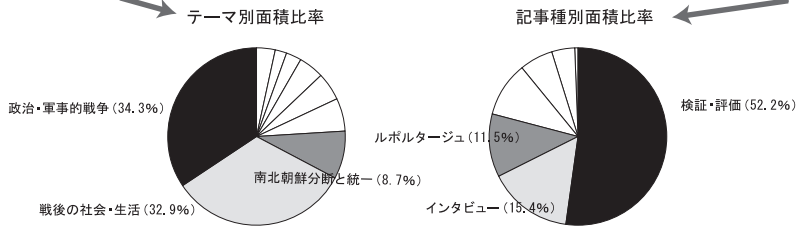


【図表4】 記事テーマ×記事種別 面積比率一覧表 『中央日報』(韓国)

「戦後60周年」はどのように報道されたか

	1. 検証	2. ルポ	3. インタビ	4. 資料	5. 主張	6. イベント	7. 伝記	
【A】 政治・軍事的 戦争	15.5% 2661cm ² (11件)	5.4% 924cm ² (5件)	5.3% 904cm ² (4件)	4.0% 684cm ² (6件)	2.3% 398cm ² (2件)	1.3% 226cm ² (8件)	0.6% 106cm ² (1件)	34.3% 5903cm ² (37件)
【C】 戦後の 社会・生活	22.3% 3827cm ² (8件)	3.8% 662cm ² (2件)	2.7% 457cm ² (2件)	0% 0cm ² (0件)	4.2% 717cm ² (3件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	32.9% 5663cm ² (15件)
【D】 南北朝鮮 分断と統一	3.6% 611cm ² (1件)	0% 0cm ² (0件)	3.7% 636cm ² (1件)	0% 0cm ² (0件)	0.5% 94cm ² (1件)	0.9% 151cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	8.7% 1492cm ² (4件)
【D】 原爆 原爆被害者	1.3% 219cm ² (3件)	2.3% 390cm ² (1件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	2.5% 428cm ² (1件)	0% 0cm ² (0件)	6.0% 1037cm ² (5件)
【D】 領土問題 (独島)	0.7% 115cm ² (1件)	0% 0cm ² (0件)	3.6% 612cm ² (3件)	0.2% 38cm ² (1件)	0% 0cm ² (0件)	0.6% 110cm ² (1件)	0% 0cm ² (0件)	5.1% 875cm ² (6件)
【D】 強制連行 従軍慰安婦	4.6% 789cm ² (5件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	4.6% 789cm ² (3件)
【D】 中国の 反日運動	2.8% 490cm ² (3件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	2.8% 490cm ² (3件)
【D】 将来への 方向性・指針	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	2.1% 362cm ² (2件)	0% 0cm ² (0件)	0% 0cm ² (0件)	2.1% 362cm ² (2件)
その他	1.5% 266cm ² (2件)	0% 0cm ² (0件)	0.2% 36cm ² (1件)	0% 0cm ² (0件)	0.9% 152cm ² (2件)	0.8% 130cm ² (1件)	0% 0cm ² (0件)	3.4% 584cm ² (6件)
	52.2% (34件)	11.5% (8件)	15.4% (11件)	4.2% (7件)	10.0% (10件)	6.1% (12件)	0.6% (1件)	100% (83件)

※比率(%)は、それぞれのカテゴリーにおける面積に対するもの/件数と面積は参考値



【図表5】 記事テーマ×記事種別 面積比率一覧表 『東亜日報』(韓国)

小寺敦之

動員問題の検証（8月27日）などは、日本の三紙では大きな議題として見られなかったものである。また、「領土問題（独島）」「日本の憲法9条」「靖国問題」なども散見され、総じて日本との関係の中で「戦後60周年」を捉えている傾向が見出された。

また、「戦後60周年」は「南北朝鮮分断と統一」を考える機会としての位置付けも与えられているようである。『中央』（8.5%）は、離散家族が光ケーブルを通じた映像で再会した模様を特集し、『東亜』（8.7%）は1945年生まれの作家チェ・インホのインタビュー企画（8月9日）を組むなどの試みを行っている。

一方、「記事の種類」については両紙の間で若干の差異が見出された。『東亜』は日本の三紙と同様に、「検証・評価」「インタビュー」「ルポルタージュ」が大半を占めているが、『中央』は「意見・主張」の占める割合が高い。これは、先述した「戦後の社会・生活」に関する特集が「意見・主張」で構成されていることによる。また、『中央』には、日本との関係について書かれた書籍について詳しく扱った記事（9月3日）があり、これが「イベント」の割合を高める要因になっている。したがって、『中央』『東亜』に見られる違いは、両紙の制作方針が異なるのではなく、特徴的な少数の企画が多くの面積を占めた結果であると判断する方が適切だと思われる。

（中国／『人民日報』）

中国の近代史の中で、日本は、日清・日露戦争から満州事変・抗日戦争（日中戦争）に至る一連の敵対国として位置付けられる。ゆえに、中国にとっての「戦後60周年」は、「抗日戦争（日中戦争）勝利60周年」を意味する。

調査対象とした『人民日報』は中国共産党中央機関紙で、日本や韓国の新聞とは制度的に異なったものである。調査結果も、その実態を追認するものであり、日本や韓国のそれとは大きく異なるものであった。

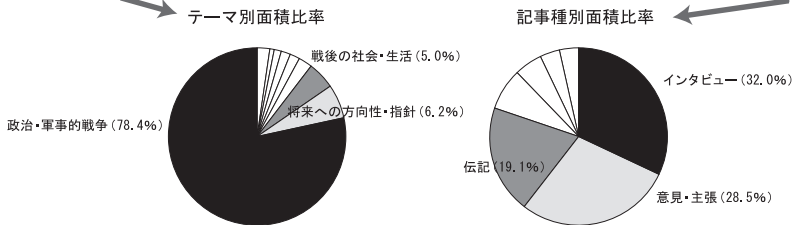
「記事のテーマ」は、圧倒的に「政治・軍事的戦争」が多かった（78.4%）。この高い割合は他紙では見られない。各地の戦闘を体験者のエピソードや歴史研究者の評価とともに振り返るといふ企画（9月3日）もあるが、多くは元軍人やその家族のインタビュー、抗日戦争の意味や共産党が果たした役割に関する論説、戦争の英雄を扱った伝記「抗日英雄」の連載が大半である。

「将来への方向性・指針」（6.2%）など未来志向的な記事もあるが、これ

「戦後60周年」はどのように報道されたか

	1. 検証	2. ルポ	3. インタビ	4. 資料	5. 主張	6. イベント	7. 伝記	
【A】 政治・軍事的 戦争	5.1% (1099cm (9件))	5.9% (1275cm (7件))	24.0% (5188cm (48件))	3.5% (764cm (10件))	17.7% (3814cm (22件))	3.1% (666cm (8件))	19.1% (4136cm (64件))	78.4% (16941cm (168件))
【D】 将来への 方向性・指針	0% (0cm (0件))	0% (0cm (0件))	0.4% (76cm (1件))	0% (0cm (0件))	5.5% (1188cm (13件))	0.3% (73cm (1件))	0% (0cm (0件))	6.2% (1336cm (7件))
【C】 戦後の 社会・生活	0% (0cm (0件))	0% (0cm (0件))	2.9% (623cm (2件))	0% (0cm (0件))	2.1% (449cm (5件))	0% (0cm (0件))	0% (0cm (0件))	5.0% (1072cm (7件))
【D】 中国残留孤児	0% (0cm (0件))	1.4% (297cm (3件))	0.8% (169cm (1件))	0% (0cm (0件))	0.3% (74cm (1件))	0% (0cm (0件))	0% (0cm (0件))	2.5% (539cm (5件))
【D】 南京大虐殺	0% (0cm (0件))	0% (0cm (0件))	0.3% (69cm (1件))	0% (0cm (0件))	0.8% (166cm (1件))	0.2% (37cm (1件))	0.5% (115cm (1件))	1.8% (387cm (4件))
【B】 戦争中の 市民生活	0% (0cm (0件))	0% (0cm (0件))	1.7% (374cm (6件))	0% (0cm (0件))	0% (0cm (0件))	0% (0cm (0件))	0% (0cm (0件))	1.7% (374cm (6件))
【D】 平和教育	0% (0cm (0件))	0.3% (70cm (1件))	0.6% (137cm (1件))	0% (0cm (0件))	0.3% (74cm (1件))	0% (0cm (0件))	0% (0cm (0件))	1.3% (281cm (3件))
【D】 靖国問題	0% (0cm (0件))	0% (0cm (0件))	0% (0cm (0件))	0% (0cm (0件))	0.8% (181cm (2件))	0% (0cm (0件))	0% (0cm (0件))	0.8% (181cm (2件))
その他	0% (0cm (0件))	0% (0cm (0件))	1.3% (270cm (4件))	0% (0cm (0件))	1.0% (218cm (3件))	0% (0cm (0件))	0% (0cm (0件))	2.3% (488cm (7件))
	5.1% (1099cm (9件))	7.6% (1642cm (11件))	32.0% (6906cm (64件))	3.5% (764cm (10件))	28.5% (6162cm (48件))	3.6% (776cm (10件))	19.7% (4251cm (65件))	100% (21598cm (217件))

※比率(%)は、それぞれのカテゴリにおける面積に対するもの/件数と面積は参考値



【図表6】 記事テーマ×記事種別 面積比率一覧表 『人民日報』(中国)

小寺敦之

らは日本に対する批判と反省を促す主張の上に成り立っている。

「記事の種類」は、「インタビュー」「意見・主張」が過半数を占め、『人民』に特徴的な「伝記」が続く。「伝記」は調査期間中の全日で確認されている。「検証・評価」に属する記事が他国に比べて少ないのも特徴的であると言える。

『人民』にとっての「戦後60周年」報道は、戦争の軌跡と先達の活躍を語ることで民族意識を高揚し、愛国心を養うことを目指したものであると同時に、日本の反省と謝罪を徹底的に主張したものであると言える。

（台湾『聯合報』）

台湾の代表的な新聞『聯合報』には、台湾の歴史と現状を反映するような結果が見出された。日清戦争が終わった1895年に清から割譲されて以降50年間、日本は東南アジアへの拠点として台湾を統治・開発した。1945年の終戦によって台湾は中国に復帰することになり、1949年に国民党政府が樹立、現在の中台関係に至っている。したがって、日本に対する台湾の立場は複雑であり、日本に対する感情も親日・反日の両極端が存在するとされる。また、2005年7月に民進党・陳水扁総統が「親日遠中」の方針を発表したことも新聞報道に影響を及ぼしている可能性がある。

こうした歴史的背景が影響を及ぼしているのかについて明確な結論は出せないが、日本、韓国、中国と異なり、台湾の新聞には絶対的に「戦後60周年」関連の記事が少なかった。だが、その中でも特徴的な傾向がいくつか見出されている。

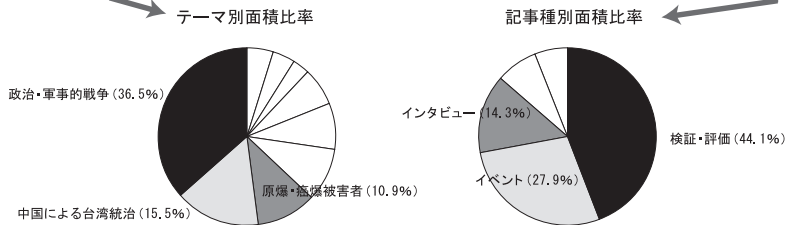
『聯合報』の「記事のテーマ」で最も多かったのは「政治・軍事的戦争」(36.5%)に関するものであった。日本の防衛基地としての立場を振り返る企画（8月14日）の他、日本・中国双方の関係者へのインタビューも見られる。次いで「中国による台湾統治」(15.5%)に関するものが多い。このカテゴリーは台湾独特のものである。また、「原爆・原爆被害者」(10.9%)、「南京大虐殺」(9.7%)などは、日本と中国の狭間で存在してきた台湾の特性が反映された結果だと言える。日本に対して批判的な記事だけでなく、「親日遠中」の立場を採るものが混在している点についても指摘しておきたい。

「記事の種類」では、「検証・評価」「イベント」「インタビュー」が多い。「インタビュー」「イベント」も、日本に批判的なものだけでなく親日的なものもいくつか扱われている。

「戦後60周年」はどのように報道されたか

	1. 検証	2. ルポ	3. インタビ	4. 資料	5. 主張	6. イベント	7. 伝記	
【A】	8.4%	0%	5.7%	2.3%	1.9%	18.2%	0%	36.5%
政治・軍事的戦争	950cm ² (5件)	0cm ² (0件)	650cm ² (4件)	256cm ² (2件)	221cm ² (1件)	2064cm ² (4件)	0cm ² (0件)	4141cm ² (16件)
【D】	13.9%	0%	1.7%	0%	0%	0%	0%	15.5%
中国による台湾統治	1573cm ² (5件)	0cm ² (0件)	190cm ² (1件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	1763cm ² (6件)
【D】	6.0%	0%	4.9%	0%	0%	0%	0%	10.9%
原爆 原爆被害者	679cm ² (3件)	0cm ² (0件)	561cm ² (2件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	1240cm ² (5件)
【D】	0%	0%	0%	3.1%	0%	6.6%	0%	9.7%
南京大虐殺	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	354cm ² (1件)	0cm ² (0件)	750cm ² (1件)	0cm ² (0件)	1104cm ² (2件)
【D】	6.4%	0%	2.0%	0%	0%	0%	0%	8.4%
将来への 方向性・指針	731cm ² (2件)	0cm ² (0件)	225cm ² (1件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	956cm ² (3件)
【D】	1.5%	0%	0%	2.2%	0%	3.1%	0%	6.9%
強制連行 従軍慰安婦	171cm ² (1件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	255cm ² (1件)	0cm ² (0件)	357cm ² (1件)	0cm ² (0件)	783cm ² (3件)
【D】	0.0%	0%	0.0%	0%	3.1%	0%	0%	3.1%
日本の 憲法9条	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	355cm ² (1件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	355cm ² (1件)
【C】	4.1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4.1%
戦後の 社会・生活	468cm ² (1件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	468cm ² (1件)
その他	3.9%	0%	0%	0%	0.9%	0%	0%	4.8%
	440cm ² (4件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	104cm ² (1件)	0cm ² (0件)	0cm ² (0件)	544cm ² (5件)
	44.1%	0%	14.3%	7.6%	6.0%	27.9%	0%	100%
	5012cm ² (21件)	0cm ² (0件)	1626cm ² (8件)	865cm ² (4件)	680cm ² (3件)	3171cm ² (6件)	0cm ² (0件)	11354cm ² (42件)

※比率(%)は、それぞれのカテゴリーにおける面積に対するもの/件数と面積は参考値



【図表7】 記事テーマ×記事種別 面積比率一覧表 『聯合報』(台湾)

考察

本研究では、日本、韓国、中国、台湾の新聞が扱った議題を中心に分析を行い、それぞれの新聞が重視する議題の共通点や相違点を明らかにしてきた。それぞれの新聞は「戦後60周年」の節目に、先の戦争を振り返る企画を展開し、戦争・戦後の評価と将来への課題の提示を行ったと言えるが、その取り組みは同一ではなく、特に日本、韓国、中国、台湾の間での差異は明確だった。

極言すれば、日本にとっての戦争は「太平洋戦争（対米戦争）」であり、戦後とは「原爆」「米軍基地」といった国内問題であると言える。一方、韓国にとっての「戦後60周年」は「光復60周年」であり、戦後の問題は日本との関係に収束する。「抗日戦争勝利60周年」となる中国にとっては、「戦後60周年」は、思想統制と日本批判の契機であった。複雑な歴史を持つ台湾については別の角度から見ていく必要性を感じさせた。

新聞の報道内容は、その時代の社会状況に強く反映され得る。その意味において、「戦後60周年」報道は、60年前の史実を報道するものというよりは、戦後60年目の現代社会を映し出したものと言える。「戦後60周年」の日本では、小泉首相が靖国神社参拝を行い、それにアジア諸国が敏感に反応した。また、韓国や中国との領有権紛争、核拡散、米軍基地再編などの「現代的」社会問題が「歴史的」観点から議論されることも多く、それらが新聞報道に強く影響を及ぼしていたことは間違いないだろう。

報道内容に差異が存在するということは、双方の国や人々の認識枠組みが異なる可能性があることを意味している。戦争や戦後の問題を議論する際には、また複数の視点が存在する社会問題を議論する際には、一方的な見方ではなく、他者の視点を理解することが重要である。その意味で、本調査で示された結果が人々の戦争・戦後の考え方と関係しているとするならば、まず認識枠組みを共有する努力が双方に求められると言える。

最後に、本研究の限界と課題についても指摘しておきたい。本調査では、データアクセスに対する限界性から、代表的と判断できるような高い普及率を誇る新聞全てを分析できなかった。日本の三大新聞は網羅することができたが、韓国の『朝鮮日報』を扱うことができなかった。また、台湾の『中国時報』も同様である。さらに、中国では、近年、中央から発刊される『人民日報』以外に、地方から『北京青年報』『新民晩報』などの日刊紙、『南方週

「戦後60周年」はどのように報道されたか

末』などの週刊紙が刊行されており、中国の現状を知るためにはこれらの新聞も分析対象として組み込んでいく必要があると思われる。さらに、メディア報道全体として考えるためには、テレビやインターネットに分析対象を広げていく必要があるかもしれない。

また、本研究は、量的比較分析を目的としたものであり、各紙の報道内容の質的側面については言及していない。だが、例えば「領土問題」の「意見・主張」が異なるなど、データ上は同じであっても見方が異なることは少なくないと思われる。双方の違いがどのようなものであるかという点については、よりミクロなアプローチによって見出されていく必要があるだろう。

各新聞紙の「戦後60周年」報道は、10年前の「50周年」とはまた異なる色彩を持ったものであったと推測できる。そして、10年後の「70周年」にはさらに異なったものになることも予想されよう。それらがどのように変遷していくかを調べることも本研究を発展させるためにも重要な作業である。だが、日本、韓国、中国、台湾の「戦後60周年」報道を客観的に比較することで、それぞれの立場や視点を共有することができたという意味では、本研究が持つ意義は大きかったと考える。

【参考文献】

- 洪崙杓（1990）「日本新聞の韓国関連社説分析」『慶應義塾大学新聞研究所年報』35, 79-95.
- 今田好彦（1991a）『『天安門事件』日中報道の比較（1）』『慶應義塾大学新聞研究所年報』36, 61-78.
- （1991b）『『天安門事件』日中報道の比較（2）』『慶應義塾大学新聞研究所年報』37, 125-140.
- （1992）『『天安門事件』日中報道の比較（3）』『慶應義塾大学新聞研究所年報』39, 45-74.
- 李相湖（1992）「日本新聞の韓国報道傾向分析—『従軍慰安婦』と『貿易不均衡・技術移転』を中心として」『慶應義塾大学新聞研究所年報』39, 123-141.
- NHK放送文化研究所放送研究部（1996）「世界のテレビは戦後50周年をどう伝えたか」『放送研究と調査』1996年10月号, 2-23.
- 尹榮喆・李光鎬（2000）「日本と韓国の領有権紛争に関する新聞報道の内容

小寺敦之

分析」『慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要』50,
141-155.